

気道クリアランス目的に肺内パーカッション療法を受けられた患者さんへ

福岡東医療センター呼吸器内科では以下の研究を実施しています。

この研究は、過去の診療情報を振り返り解析する「後ろ向き観察研究」と呼ばれる学術活動です。過去に実施された検査の結果等の診療情報等を利用しますので、患者さんに新たにご負担いただく検査や治療はありません。また、学術論文や学会で公表する場合も、個人情報の保護には十分配慮し、第三者には誰のものか一切わからないようにします。

患者さんにはご自身の診療情報が使用されることを拒否する権利があります。本研究の対象に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に使用されることを希望されない場合は下記の問い合わせ先にご連絡ください。既に学会や論文発表が行われている場合はデータを削除できない場合がありますのでご了承ください。なお、研究協力を拒否された場合でも、患者さんが診療上で不利益を被ることはありません。

【研究課題名】	当院における機種の特性を活かした肺内パーカッション療法
【研究実施期間】	2017年7月1日～2024年3月31日
【研究実施期間・研究責任者】	独立行政法人国立病院機構 福岡東医療センター 呼吸器内科 研究責任者 山下 崇史
【対象となる方】	西暦2017年7月1日から2023年6月30日に福岡東医療センター呼吸器内科にて肺内パーカッション療法を受けられた116名
【研究の意義、目的、方法】	<p>【研究の意義】気道クリアランスが不良であると気道抵抗増加による努力呼吸、無気肺による酸素化能低下、咳嗽の誘発によるADL低下を来します。肺内パーカッション療法は気道内分泌物の流動化、エアハンマー効果により、体位に依らない排痰が期待できるため、気道クリアランス不良な患者様に対してその有用性と安全性を示すことがこの研究の意義となります。</p> <p>【目的】当院において気道クリアランス目的に肺内パーカッション療法を施行した116名の患者様の転帰や治療効果について検討します。</p> <p>【方法】2017年7月より2023年6月まで当院にて気道クリアランス目的に肺内パーカッション療法を施行した116名の方について後ろ向き観察研究を行いました。また使用する機器の特性と選択基準について検討しました。</p>

【利用する情報の種類】	肺内パーカッション療法の診療に関する診療記録、臨床検査データ（血液）、呼吸機能データ
【個人情報の保護】	研究に際して個人が特定されないように、個人が特定できる情報は削除します。
【問い合わせ先】	独立行政法人 国立病院機構 福岡東医療センター 研究責任者： 山下 崇史 住所：〒811-3195 福岡県古賀市千鳥 1-1-1 電話番号：092-943-2331（代表）